

# 聴覚障がい者が 災害発生時に困ること交流!!

11月21日に、小学部6年生の2名がパネルディスカッションなどによる交流会を行いました。内容は、災害が起きたときに聴覚障がい者は何に困るのかを考えるためのものです。参加してくださったのは、本校ボランティアバンクに登録してくれている卒業生2名と卒業生の聞こえる家族、そして、聴覚障がい者協会の会長様ご夫妻の5名です。いずれも子どもたちと同じく、聴覚障がい者の暮らしを実感としておもちの方々ばかりで、素晴らしいキャストだと思いました。

まず、自己紹介では、卒業生でもある皆さんが、在学中に食べた給食で一番好きな物で盛り上がりました。カレーライス、揚げパン・・・鯨のフライという方もいて驚きました。また、在校生の6年生と同じく、一番の思い出は修学旅行だったようで、一気に仲良くなれた気がしました。

子どもたちは、「災害を歴史から学ぼう!」というテーマと「防災設備を整えよう!」というテーマで調べたことを発表し、キャストの皆さんと質問し合ったりして交流しました。素晴らしいなと思ったのは、子どもたちのまとめで、必ず「自分だったら」という意見を付け加え、自分事として考えようとしていたことです。また、「100円ショップを活用して備えたい。」という発言があり、防災の専門家が話しているようなことに気付いたんだなと感心しました。



## 聴覚障がいの人が災害の時に困ること

- ①避難の放送がわからない  
→紙に書いたり、手話を使って伝える。
- ②がれきの下にいて気づいてくれない  
→近くにある物を投げる。  
地面を叩く
- ③事故や事件の情報がわからない  
→健聴の人に何かあったか聞く

- ④どこに避難すればいいかわからない  
→警察や消防の人に聞いたり教えてもらったりする。
- ⑤避難所で何をすればいいかわからない時  
→他の人に聞いたり、説明文を読んだりする。  
(まとめ)  
人の心を考えることが大事。それは思いやり

## まとめ

- ・災害から身を守るためには、家で防災設備が備っているかを確認して、なかったら100円ショップで買うことができることが分かった。
- ・防災設備を調べてみて、僕の家にはほとんど設備はないので、設備を揃えて安全な家にして災害に備えたいと思いました。
- ・安全に避難をするには、「譲る心」、「思いやり」の気持ちが大事だと思いました。



また、とてもよい勉強になったと思うのは、石井様から「きこえない人の暮らし」というタイトルで災害が起きたときのお話を聞くことができたことです。聴覚障がい者として長年生活してきて感じた実感をお話いただき、大きな学びになりました。

今朝になって、朝学習の漢字を勉強している6年生の二人に「昨日はいい勉強ができたね。」と話し掛けました。二人は、「皆さんから「細かく調べたね。」「よく調べたね。」と感想をもらいました。」と教えてくれました。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

